



伊豆の国市 議会だより

2012年11月1日発行
No. 28

編集
伊豆の国市議会だより特別委員会
〒410-2292 静岡県伊豆の国市長岡340-1
☎ 055-948-1417 FAX 055-948-2913

9月定例会

一般質問	2
常任委員会報告	8
特別委員会報告	11
議案一覧	12



タイトル：夏の散歩路
長岡中2年生
ふじもと みゆ
藤本 美柚 さん

一般質問

当局の考え方を、一三名の議員が質ただしました。

議員の問いと行政の答え



題と産業、観光を結びつけて考えていきたい。

観光に対しては、新東名・伊豆縦貫道・東駿河湾環状道等道路が整備されると、通過道となる事が危惧されるので一層の誘客宣伝を広げていきたい。

「生き生き働く活気に満ちた産業のあるまちづくり」について

鈴木幸雄

問

長引く景気低迷により雇用環境の悪化や、所得の減少など厳しい経済状況が続いている。また、行政の取り組みに対する市民の意識調査の中で、この産業・経済・労働の分野は、満足度の低い取り組みとなっている。今後、商工・観光・農業の振興策が益々必要と思われる、産業の振興策について伺いたい。



伊豆縦貫道

中小企業事業資金融資制度の

利子補給をしており、今年より始めた住宅新築及びリフォーム助成事業も、次年度への継続を考えている。

企業誘致については、スポーツワールド跡地、採石場跡地等の問題も含め、道路開

答

商工振興については、各種補助事業をはじめ

跡地等の問題も含め、道路開

問

伊豆の国市も合併八周年となり、伊豆の国市

伊豆の国市の市歌を制定しませんか

制定しませんか

民としての一体感が感じられるようになった。旧町には町歌があったが、市には市歌がない。特色のある市にふさわしい市歌の制定を。

答

市制一〇周年事業の中で市歌をつくっていきたい。合せて、伊豆の国市音頭をつくりたい。

男性職員の育児参加について

柴田三智子

問

育児休暇を希望する男性職員が、周囲に気兼ねせずに休暇が取れる環境づくりを考えるべきですが、工夫していることは。

答

出産する女性職員だけではなく、父親となった男性職員にも育児休暇についての説明を個別に行い、積極的な取得を促しています。

男性職員が子どもを育てるための休暇をとるには、勇氣



自然体験教室

団塊世代男性の社会参加と子育て支援について

問

団塊世代の男性の社会参加の一環として「イクジイ」育ジイマスター」となっていたが、地域の子育て

育兒休暇等については、国の制度と歩調を合わせ、取得しやすい環境の整備を行っていききたいと考えています。

がいるのかもしれませんが、取ることが必要だと思っています。

事業などに参加して活躍していただく場作りをしませんか。

答

「育ジイマイスター」育成については、全く異論がありません。生涯学習や公民館事業の中での「イクジイ講座」ということは可能かと思えます。

公民館の耐震工事費用助成を

古屋鋭治

問

市は今年度、地区公民館の耐震診断費用補助

を行うことを決定した。

①該当区への説明と耐震診断希望区は。

②耐震補強工事実施区へ新たな助成制度を設ける必要があると考えるが。

答

①耐震診断が必要な該当区には、公民館の耐震性・安全性向上を図るための補助内容を説明した。

なお、公民館耐震診断希望は次の二〇区である。

小坂、長瀬、戸沢、花坂、南江間、町屋、千代田、長塚、金谷研修センター、山木産業会館、原本、高原、内中、大仁、三福、田京、宗光寺、下畑、田原野、長者原。

②耐震補強工事への助成は、今年度の耐震診断結果と区の要望を聞き、区の負担が少ない方法を検討する。

千代田団地等の生活支援バス

問

伊豆箱根バスは、今年三月末で千代田団地か



試験運行中のバス

ら葦山駅までのバス運行廃止を決定した。このため、市は昨年十一月から試験運行をスタートしている。運行状況と、生活支援バスに対する考えは。

答

四月以降、千代田団地からマックスバリュ

葦山店經由葦山駅行きを運行中である。一日往復一八便で、利用数は一日二三人程度。千代田区には、一日二七人以上の乗車がなければ路線は廃止することを伝えている。

なお、立花台区、星和区からもバス運行要望があり、担当職員が意見交換を行っている状況である。

狩野川中流域豪雨対策

アクションプラン

渡邊俊一

問

アクションプランの進捗状況は。

答 柿沢川流域については、現在着手中の工事は本



松原橋高架橋下の調整池

用地買収および調整池設置工事を進めていきます。

葦山古川流域では、現在、総合流域防災事業として渋川合流点より上流部の、約九三〇mの護岸工事を実施中です。

宗光寺川流域では、昨年度に支流の山田川に三六〇〇立方メートルの調

整池が完成しました。尚、谷戸川上流部の調整池は候補地を調査しています。

戸沢川流域では、支流の長岡川の改修が年内に完了する予定です。

深沢川流域では、鍋沢川・中

島都市下水路への排水機場設置の測量・設計を七月に発注しました。

問

狩野川の河床の浚渫は。

答

県や国に実施するよう申し入れています。

堂川流域での城池の一時貯留は、昨年度は試験的に実施したところ、土手和田区で効果があったので今年度以降も実施します。

洞川流域では、上流部への調整池設置は、今年の七月に測量を発注し、来年度以降は

地産地消の取り組み強化で、経済の活性化と滞在型観光の推進を

天野佐代里

問 循環型社会を目指す当市だが、温暖な気候と温泉、豊富な農産物と景観を活用した滞在型観光を推進することで、生き残りを図るべきではないか。市内における体験型・滞在型観光の取り組み状況は。

答 現在、滞在型観光の取り組みは行われていない。農業体験と宿泊を結び付けるような企画を、狩野川流域市町と連携を取りながら研究し、宿泊客の増加に繋げたい。

問 観光戦略について、今後の見通しは。

答 歴史サイクリングツアーの創設や伊豆半島城郭構想の活用により、歴史や自然の恵みが堪能できる観光プランの創設を目指す。観光



未整備の渋川下流部

光ボランティアの育成確保など、地域との連携により観光客へのおもてなしに努めたい。

韭山反射炉に通じる伊豆長岡駅周辺の整備計画は

問 県道韭山反射炉線の道路整備と、周辺の河川や橋の改修の必要性は。

答 車や歩行者への安全対策や、観光客にも分かりやすい案内板の整備を要望して行きたい。

渋川は県道横断部だけで

なく、下流部でも断面不足になっているので、浸水対策を考慮した改修計画を検討して行きたい。

問 内中橋の架け替えに伴う周辺道路の整備は。

答 県と調整しながら歩行者の安全を図る歩道整備計画を検討したい。

問 交通事故が多発している交差点の認識と対策については。

答 高齢者が被害者になる事故が増加しているため、大仁警察署と連携して交通安全教室や街頭指導など、対策に積極的に取り組みたい。

特養ホームの入所待機者の解消を

田中正男

問 平成二二年四月から介護保険制度が導入され、市内に三カ所の特別養護老人ホームが整備されてきたが、

入所待機者は何人か。

答 重複を除いた実人数はぬくもりの里八九人、いちこの里九九人、ぶなの森三五人、合計二二三人です。

問 特養ホームの増設や増床をして、入所待機者の解消をすべきではないか。

答 平成二六年度に定員二九人の小規模特養ホームを整備予定です。今後も、入所待機者の増加が予想されます。在宅介護サービスや介護予防サービスと共に、地域密着型サービスを中心とした施設整備を進めます。

平成二六年度に定員二九人の小規模特養ホームを整備予定です。今後も、入所待機者の増加が予想されます。在宅介護サービスや介護予防サービスと共に、地域密着型サービスを中心とした施設整備を進めます。



特別養護老人ホーム いちこの里

防災ラジオの全世帯配備を

問 今年度から予定した同報無線デジタル戸別受信機配備を変更した理由は何か。災害に備えアナログ防災ラジオの全世帯配備を早急に

答 デジタル戸別受信機は今調査している同報無線の難聴世帯に配備する。また、コミュニティFMの開局の予定もあり、それも聞ける防災ラジオが有効と考え検討を進めている。まだ配布計画はできていないが、全世帯配備ではなく希望する世帯に配備をと考えている。

広域一般廃棄物焼却施設建設事業について

高橋公一

問 市政懇談会でのごみ焼却場建設に反対する意見の受け止め方や、平成二四年二月よりの環境影響

二四年二月よりの環境影響



ごみ焼却施設（花坂）

調査結果の地元説明会を、どのような形式で開く予定か。

答 多くのご意見を真摯に受けとめ、スポーツ

ワールド跡地での広域廃棄物処理施設の整備に向け努力していく。事業の必要性、重要性を認識してご協力をいただきたい。

また、環境影響調査の結果は、現在の環境・大気の状態を知ることが出来るので、調査結果の報告と説明を聞いていただきたい。

特定健診・がん検診を市外の医療機関も助成対象に

問 田方地区以外での特定健診・がん検診も助成すべきではないか。

答 特定健診については現在、田方医師会に健診の委託を行っており、伊豆市、函南町の医療機関でも受診出来る。平成二三年度実績で、伊豆市の医療機関で受診された方が五〇人、函南町では二二〇人で、全体での割合は五％程度である。三島や沼津の医療機関をかりつけ医にしている方も、特定健診は市内の医療機関で受診していただきたい。

大仁高校跡地を活用し地域の活性化を

三好陽子

問 統廃合された大仁高校跡地の活用について、大仁区まちづくり協議会で



旧大仁高校グラウンド



も検討しているが、市としても積極的に取り組むべきと思うが。

答 平成二三年から二五年三月まで、県からグラウンド部分のみ無償で借り受けている。現状では、引き続きグラウンドのみ無償借用を要望している。

市が取得した場合は、生涯学習の場や防災拠点施設として活用したい。

耐震補強が必要な二支所耐震性確保の考えは

問 平成二三年度に実施した耐震診断では、大仁支所は、耐震補強に六〇〇〇万円。韮山支所は、六億円強かかるとの結果が出た。

支所の役割は重要であるが、支所の耐震性確保の考えは。

答 大仁支所は、耐震化工事に向け作業を実施している。韮山支所は、耐震化工事・建て替え・既存の公共施設を改造移転するなど、それぞれの費用対効果等を比較できる資料を業務委託している。今年度中に結論を出し、来年度の事業で進めたい。

ました。

消防団員が減少する中、地域性を考慮した車両の配備や資器材の整備が必要です。二分団になり経費削減効果は。

答 団員数は、支援団員制度の導入により、減少していません。経費は若干の減額はあるが、基本的には統合前と変わっていない状況です。

問 分団は統合されたが、車両や詰所は。

答 統合前と同じ二七台を、配備しています。車庫や詰所も同様になっています。地域性を考慮しながら、消防

消防団統廃合のその後について

大沢秀光

問 平成二〇年四月より、市消防団の組織が二〇分団を一二分団に再編成され



消防団早朝訓練

力が低下しないよう見直し等をしていきたい。

消防団活動に協力する事業所を応援する県の事業について

問 市内で参加している事業所と、市として応援する考えは。

答 県に合わせ、市では平成二四年四月より導入し、二事業者が認定を受けています。協力事業所への表彰制度の創設や、広報紙でのPRにより、応援できるように検討していきたい。

菰山支所の

耐震化構想は

鈴木照久

問

①地震災害時、菰山支所に代わる拠点場所はある建物構想を)

答

①同庁舎が被災し、使用不能の場合には、隣接する菰山福祉・保健センターに支所機能を移転します。②耐震工事の実施・改築・既存施設への移転・新築移転等について研究をしています。

今後、改築・新築移転の方向性が決定した場合には、複合的な建物も視野に入れ財政状況を見ながら検討していきたいです。



菰山支所

登下校の安全対策を

問

劣化したグリーンベルトの補修を。

答

小中学校の通学路に多数設置されています。薄い箇所は、調査し対応します。



グリーンベルト (原木)

自然災害時における、障がい者(児)支援対策は

問

①地域(各区)の「共助」を生かす対策は。

②災害後の巡回指導等の対応策は。

答

①災害時要支援者台帳を活用し、自主防災組織や民生・児童委員会を中心に支援します。

②障がい福祉課では、被災者が受けるであろう心の傷のケアのため、「心のケアチーム」の巡回相談を考えています。

いじめ問題の現状と対策は

問

小中学校の現状と指導及び今後の課題点は。

答

昨年度、小中学校で、七六件ありました。楽しい学校・学級とわかる授業。そして、楽しく何でも話せる家庭づくりが、いじめ対策の基本と考えています。

農業用水を活用した小水力発電の導入について

萩原眞琴

問

楠木江間農業用水を利用した小水力発電事業を、どのように考えますか。

答

この施設は他の用水施設と異なり、全線管水路であります。自治体の小水力発電の事例として、横浜における上水道施設の配管を利用した発電で実証されています。



サイフォン式水車

しかし、市は水利権上、年間を通じて取水可能ですが、たくさんのお水を使っている時期は、多くの地区と同様に六月上旬から九月中旬の三ヶ月半に限定をされております。それ以外の時期については水の使用量は少なく、詳しく測定した実績はありません。

県の管理運用に関するガイドラインが作成されたら、小水力発電の導入を促進するための必要性や採算性などを含めて今後の課題としたいです。



エメラルド管理組合の事務所

エメラルド別荘地問題の今後について

水口 成男

問

損害賠償請求事件和解協議における最終和解案の内容と今後の対応は。

答

道路用地及び道路施設のうち、舗装の補修等軽微な修繕を除き、市道にかかる道路用地等の修繕は市が行い、路肩及び法面の草刈り等軽微な修繕はエメラルド管

理組合が行う。

側溝の清掃等の維持管理については管理組合とみどり区が協力し行う。

水道施設・用地の管理については、水道事業経営上無認可地であるから、県の認可を取得することを第一優先としたい。エメラルド管理組合との協定書では、市が水道事業認可を取得するまでの間は、従来どおり管理組合が管理運営を行う。

「森の力整備事業」について

平成一八年度から五年間の整備実績

問

と、今後の整備計画と県との連携は。

答

整備件数一二件七三・五七ha事業費五三六四万円。平成二三年度は六件一〇・六四haで事業費二六〇九万円。広く関係者に周知するた



人家に迫る荒廃した竹林

め「広報いずのくに」への掲載も行っている。

森林整備について相談があれば、「森の力再生事業」の紹介をし、随時県に打診するなど連携をとり今後もこの体制を継続する。

雇用創造地域再生計画事業のあり方は

後藤 眞一

問

事業目的や内容は、どのようなものか。農業問題は農産物販路の確保とか、観光対策は集客を確かにする

事業創生など、外へ向けて発信すべきでは。

答

事業目的は、約二億七〇〇〇万円。二年九カ月で三五〇人の雇用生むことにあり、雇用拡大・人材育成・就職促進・雇用創出の四メニューある。

消防救急広域化制度は、

四分五裂していい良いのか

問

東部消防救急広域化は、四分五裂していい目的を達成できるのか。単独でも協力協定を結ぶことで良いのでは。

答

国の政策が前提にあつて、広域化によって財政・機材・機能・人員規模など組織活性化のメリットがある。広域化を進めたい。

「コミュニティFM局整備事業」補正予算案の取り下げを

問

運営規模と市の負担は。

答

運営経費三〇〇万円、負担三分の一と想定。費用対効果は、聴取率と地域活性化に貢献できたかで判断。災害時の活用につなげたい。

問

事業内容・運営資金・市の負担等々、不明瞭で提案は乱暴。聴取率も一割弱と考えられ、本補正予算案を取り下げべきではないか。

答

ご意見いただいたが、このまま補正をお願いしたい。



田方消防司令室

常任委員会報告

九月定例会において、各委員会に付託された平成三三年度決算認定、平成二四年度一般会計補正予算、閉会中の継続調査の報告です。次に活かせる事業評価を目指して慎重に審議しました。



総務委員会

平成三三年度一般会計決算認定

平成三三年度の歳入総額は、

一九一億七五二三万五一六八円。歳出総額は、一八二億六六〇万一〇九四円。次年度繰越額を差し引いて、八億五八八七万五〇〇〇円の黒字決算でした。

この黒字分は、財政調整基金に積み立てられております。

これは一般家庭における貯金です。これらの差額は、各部署での節約や入札等で予算を下回った余剰金や、市有財産の売却代金等です。

■余剰金を単に積立金に回すのではなく、年度内に新たな事業を組み、市民サービスのために消化すべきでは。

ますが、自主的に徴収率を高めていくにはもう少し時間がかかると思います。

平成二四年度一般会計補正予算

■コミュニティFM局

整備事業費五六二五万円は

この事業は、地域コミュニティの活性化を図る事と災害時の情報伝達を目的に、第三セクター方式で来年四月の開局を目指しています。

内容は、放送スタジオ設計（時代劇場）・設備工事・送信所設備（源氏山）・放送機器類等です。

この事業は、徴収能力の向上を図る目的でアドバイザーをお願いして、三年目を迎えて、年々徴収率は向上してい

閉会中の事務調査

■浜岡原子力発電所

現況視察について

昨年の三月十一日の東日本大震災の後、福島原子力発電所事故の教訓を得て、浜岡原発の現状の視察と防災工事の状況を視察しました。

浜岡原発では、福島原発事故の数々の教訓から、津波対策や施設の配置換えが急ピッチで進められていました。

県の第三次津波被害想定等を参考に、海抜一八m～二〇mの防波壁の一・六kmにわたる設置工事を、毎日二〇〇人の作業員を動員して行っている。



FM局設置予定地（葎山時代劇場）

〇当委員会のまとめ

現在、原発の是非が論じられているが、原発の安全確保の整備は、廃炉・再稼働に関係なく進めなければならないです。

政治的に中立な、エネルギーの技術的専門家集団等を編成し、権威のある人達によって、地震大国日本が、原子力に依存しないエネルギー開発のための研究機関を設置し、早急に研究を進めるべきであるとの結論に達しました。



浜岡原発視察研修

ます。その他、浸水防水対策・緊急時対策の強化を来年にかけて突貫工事中でした。

観光建設委員会

平成三三年度一般会計決算認定

■市の建設事業の執行状況は
長岡川の遅れがありました
が、ほとんど順調に進み、予算
現額に対する執行率は九五%
でした。

■堆肥製造技術指導委託料

一六八万円の評価は

七月から九月までの三ヶ月
間の委託料です。年間を通し
安定した製造の技術を取得す
ることができたので、今後は

三名の職員だけで処理する形
になります。

■地域観光情報発信事業二三

三七万三〇〇〇円の業務委託は

現在、補助金を使いK—M

IXで放送していますが、来
年度、コミュニティFMが開
局するということで、この事
業は無くなるかと考えています。

平成三三年度楠木及び天野揚

水場管理特別会計決算認定

■楠木揚水場の電気設備改修
工事の効果は

不具合が生じた配電盤内の
部品交換を行いました。今後も、
管理費の増加が見込まれるの
で、適切な維持管理に努めます。

平成三三年度簡易水道等事業

特別会計決算認定

■維持管理費の浮橋茅野送水

管布設工事二八二万三〇〇
円の状況は

工事が完了したので、安定
供給が来ています。今後も
安全で良質な水道水の安定供
給に努めます。

平成三三年度下水道事業特別

会計決算認定

■狩野川流域下水道維持管理
負担金の負担率は

維持管理負担金は処理費で
す。事業許可面積によって負担
率が違い、函南町二七・三%

伊豆市二一・〇% 伊豆の国市

五〇・七%になっています。

平成三三年度上水道事業会計 決算認定

■事業評価は

純利益は六九〇九万八〇〇
〇円で、前年度に比べ一八六
七万円減少しました。原因は
主に、節水等による使用量の
減少によるものです。引き続
き安心安全な水の安定供給に
努力します。

平成三三年度一般会計補正予算

■いちご祭りと秋の収穫祭補

助金一〇〇万円は

いちご祭りは従来どおり実
施、秋の収穫祭は農協JAま
つりと統合し、JAグリーン
プラザで行います。各実行委
員会への補助金です。



いちご祭り



工事予定の急傾斜地

■長岡急傾斜地崩壊対策工事

一億六〇〇〇万円は

順天堂病院から研修棟建設
の希望があり、山側を削り道
路の付け替えを実施するため
の崩壊対策工事費です。

■県営かんがい排水整備事業

四〇〇万円は

南條揚水機場のポンプ電動
吐弁の不良で、緊急を要する
工事費の負担金二五%です。

■コミュニティ施設耐震化助成

事業二六二万六〇〇〇円は

昭和五六年以前に建てられ
た、コミュニティ施設(公民館
等)二ヶ所の耐震診断費用
の不足分です。

閉会中の事務調査

■観光推進事業の現状について

実施された観光協会主催の
祭典・イベントなどは例年通
りの事業でした。

新事業として「源頼朝拳兵
八三〇年祭」と「実践型地域雇
用創造事業」に取り組み、交流
人口の増加に繋げたいとの事
でした。

■伊豆エメラルドタウン別荘 地内施設の市への移管について

平成三四年三月二八日に和
解が成立し、六月二一日に行
政との協定書を結び現在に
至っている。

今後のスケジュールとして
は、今年度に基礎調査及び現
状調査を実施し、平成二六年
以降に、水道事業創設許可取
得に向けて、県との調整をお
こなっていく予定です。経費
は概算で七〇〇万円と推計
しているとの事でした。

福祉文教委員会

平成三年度一般会計決算認定

■児童虐待・DV対策事業で相談件数が、前年度一二件に対し一八二件と増えているが、その要因と相談の内容は。

相談員を一名設置し各種機関とも連携をとり、体制の充実ができたためだと思います。

相談内容は、夫等からの暴力が四二件、離婚問題三九件、人間関係三五件、子どもに関するものが二六件です。

■新事業の障がい児支援・発達障がい巡回相談事業の成果は

保育園と子育て支援センター等延べ九三施設を巡回し、一六名の発達障がいのある子どもの相談を受けました。

■自殺予防対策事業の電話相談事業は

無料電話とし、延べ五四件の相談を受けました。

■新設置された健康マネジメント室の事業は

母子保健・子育て支援・救急のガイドや、がん検診受診率向上のPR。また、順天堂病院と災害時の救護病院協定の準備などです。

■新事業の地域支え合い体制づくり事業は

高齢者が緊急時用に、保険証や連絡先などの情報を入れる救急医療情報キットを、五〇〇〇個購入し二〇〇〇個配布しました。

■葦山小学校の水道料が、前年度より一九〇万円ほど増えている原因は

簡易水道料金が一七五〇円から八〇円に値上がりした事が大きいです。

■学校のパソコン借上げリース料の設定は

合併を機に旧町のをまと



パソコン教室

めた整備計画に基づいて、古いものから順に同じ条件で入札して交換しています。

■震災後の放射能に関しての給食食材の安全への対応は

市場に出回っているものは安全との認識で特別測定はしませんでした。現在は市独自に測定器を購入し測定しています。



放射線測定器(長岡給食センター)

平成三年度国民健康保険特別会計決算認定

特定健診は、受診率目標五〇%に対する取り組みと結果は

特定健診とがん検診と一緒に受けられる集団検診を六カ所で行い、実施し、二月に追加健診を行いました。受診率四五・二%となり、県内五位でした。

平成三年度後期高齢者医療特別会計決算認定

■広域連合納付金の内、一三三三万円を不用額とした理由は

第八期分納期日の平成二四年三月三十一日が休日だったので、四月二日が納期日になり、次年度扱いになったためです。

平成三年度介護保険特別会計決算認定

■介護保険計画第四期の最後の三年目だったが、財政の結果は

施設介護サービス給付の中で、特に「特養ぶなの森」への市民の施設入所が少なかったため、計画より歳出が少なかったです。

平成二四年度一般会計補正予算

■児童発達支援給付費負担金三八二万二〇〇〇円は

児童福祉法の改正で、重度心身障がい児通園事業は市の事業となり、給付費増額で国庫負担金の増額分です。

■生活保護費補助金セーフティネット支援対策事業費補助金一四二万九〇〇〇円の減額は

予定した面接相談員が経験年数不足のため、国庫補助対象外となり二三万五〇〇〇円の減額と、生活保護調査員雇用の八〇万六〇〇〇円の増額です。

■中学校施設維持補修事業

一〇八〇万円は

大仁中学校旧テニスコートを地権者に返すための、整地工事費です。

■体育施設維持補修事業

二二〇万円は

長岡体育館非常扉取替えと、長岡温水プール玄関屋上防水工事です。

閉会中の事務調査

■シルバー人材センターの事業内容についての調査

平成三年度会員数は五〇五人。受注件数は一五七三件。契約金額は三億二一〇〇万円。

市の仕事は三七件で、一億六三〇〇万円。市の仕事の割合は県内では突出して多いとのことでした。

特別委員会報告

市議会調査検討特別委員会

本委員会は、平成二十四年三月定例会において、議会運営及び議会活動の活性化を図り、市議会制度を充実させていくことを目的に設置された。

委員会に付託された調査検討事項は、議員定数に関する事項と選挙公営に関する事項の二点である。

本委員会は、四月一八日に第一回の委員会を開催後、九月一三日までの間、計九回慎重かつ精力的に審議を重ねてきた。

議員定数について

本市議会の議員定数は、平成一六年九月三〇日に告示された合併協議会において、五四人から三四人に定めた。



議 場 風 景

また、前回の選挙前に二四人から三二人と定めて現在に至っている。委員各自の身辺などの調査をしたところ、減少すべきが過半数であった。現状維持が三分の一程度であった。さらに、静岡県内の同じような人口減少傾向・定数削減の動向などを合わせて調整検討した。

また、選挙のたびに定数を増減することは避けるべきで、ある程度長く変えないで済む定数にという意見もあった。

結果、定数削減の意見が多数を占め、定数は一七人と決定した。

九月二七日、九月定例会最終日に議員定数二二人を、五人削減して一七人とする条例の一部改正案を賛成多数で可決した。

選挙公営について

公職選挙法では、市議会議員選挙と市長選挙は、運動用の自動車の賃借料・運転手の費用・燃料費及びポスターの作成費用など、選挙費用の一部を公費で負担できることが認められている。

この制度は町村には認め

られていない。現在、静岡県下二三市中一九市で、選挙公営条例を制定し実施されている。ほとんどが公職選挙法改正時や市制施行時に制定されたもので、伊豆の国市では合併時に合併協議会で協議されなかった。

経費のかからない選挙や選挙運動の機会均等、若年層が立候補しやすくなり、収入の格差に関係なく平等に選挙が実施されるようになることを目的としたものである。委員会では賛成多数で実施するものと結果がでた。

平成二五年四月の選挙から施行できるよう、選挙運動の公費負担に関する条例制定を要望し、八月三〇日に議長より市長に提出し、受理され検討中である。

◇議会だより第二十七号訂正

左記二点につき、お詫びして訂正をいたします。

一〇頁・福祉文教委員会
一段・後ろから三行目

誤
するするため
正
するため。

一一頁・特別委員会報告
二段・後ろから五行目

誤
所です。
正
ところす。



平成24年 第3回(9月)伊豆の国市議会定例会

9月定例会は、平成24年8月30日から9月27日までの29日間の会期で行われ、平成24年度一般会計と6件の特別会計の補正予算、平成23年度一般会計と7件の特別会計の決算認定、財産の無償貸付、道路の路線の認定、諮問、報告、条例の一部改正、議員発議などが上程され、慎重に審議して原案どおり可決承認された。

議 案 等 一 覧

◆平成24年度伊豆の国市一般会計補正予算(第3号)

歳入歳出予算の総額に7億6400万円を追加し、歳入歳出予算の総額を183億5900万円とするもの。

◆平成24年度伊豆の国市特別会計補正予算

国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計、楠木及び天野揚水場管理特別会計、簡易水道等事業特別会計、下水道事業特別会計の6会計。

◆平成23年度一般会計歳入歳出決算の認定について

歳入総額191億7,523万5,168円。歳出総額182億660万1,094円。次年度繰越1億975万9,000円。差引残額8億5,887万5,000円で認定。

◆平成23年度伊豆の国市特別会計歳入歳出決算の認定について

国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計、楠木及び天野揚水場管理特別会計、簡易水道等事業特別会計、下水道事業特別会計、上水道事業会計の7会計。

◆その他

財産の無償貸付について1件、市道の認定1件、人権擁護委員の諮問について1件、平成23年度決算における伊豆の国市健全化比率及び資金不足比率の報告1件、防災会議条例の一部改正1件など。

◆議員発議

伊豆の国市議会の議員の定数を17人と定める条例の一部を改正。

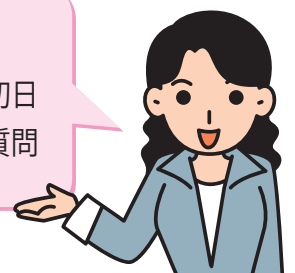
表紙絵について

この絵は、私が一年生のとき祖母と散歩に出た様子を描いたものです。
木々の緑や爽やかな空気が、とてもおいしかったです。

12月議会の予定

11/30(金)……議会初日

12/3(月)～5(水)……一般質問



編集後記

神社の祭りが近づき、子供達のしゃがりの練習が始まった。以前は四年生にならなければ、小太鼓をたたかせてもらえなかった。大太鼓は六年生の特権であり、低学年は廃タイヤでの練習だった。

最近、子供が減り一年生から小太鼓に挑戦している。昨年はふざけて走り回っていた子が、もう小太鼓をたたけるようになった。

世話をしている保護者が関心を持ち、保存会のメンバーも増えた。地域の伝統を支える大人が減り、行事が無くなる事も多いと聞くが、いつもと変わらない年中行事の風景に安堵する。

保存会に籍を置き七年。私は、未だに小太鼓しかたたけない。

(天)

議会だより 特別委員会

委員長
副委員長
委員

後藤 眞一
天野 佐代里
鈴木 木口
水口 成男
三好 陽一
渡辺 俊一